



(せみの声にさそわれて)

理念

私たちは、高い技術と温かい心を持って、医療・介護を提供し、地域社会の発展に貢献します

基本方針

1. 患者様中心の良質な医療と介護を提供します (良質な医療と介護)
1. 医療安全に最大の注意を払います (医療安全)
1. 地域の医療機関や介護サービス機関と連携し、地域医療・介護の充実に貢献します (地域連携)
1. 全職員は常に最新の医療・介護の研鑽に努めます (研鑽)

着任のごあいさつ



脳神経内科
藤井ちひろ

所属学会
資格

日本神経学会：神経内科専門医／指導医
日本内科学会：総合内科専門医
日本神経免疫学会
International Society of Neuroimmunology
日本医師会認定産業医

2020年1月より、脳神経内科医、産業医として毎週水曜日に勤務をさせていただきます藤井ちひろです。脳神経内科医としては、当院ですでに森先生が大変お忙しくご活躍をされており、微力ながらお手伝いできれば嬉しく思います。

私たち脳神経内科が専門とする病気の中には、認知症やパーキンソン病、脳血管障害など完治の難しい病気が数多くあります。こうした病気に対しては、適切な診断と治療に加えて、ご家族や各種方面のスタッフと連携を取りながら介護保険サービスなどの社会資源を上手に活用することで、患者様の生活を維持し「病気と共に生きていく」ためのお手伝いができると考えています。

一方、医学の進歩に伴って、治療可能な脳神経

内科の病気も増えています。私が脳神経内科の中でも特に専門としている神経免疫疾患は、いわゆる「難病」ですが、適切な治療がなされれば寛解を維持することも可能です。こうした「治療可能な神経疾患」を見落とさないことも私たち脳神経内科の大事な仕事です。神経免疫疾患に関しては、京都府立医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センターでも専門外来を担当しておりますので、何かございましたらどうぞご相談ください。

また、最後に、産業医としては大変未熟者で恐縮ですが、職員の皆様との対話を通してより良い職場環境を実現し、皆様の健康管理に貢献したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護部長就任のごあいさつ

看護部長
西原 さえ子



今年度より下村看護部長の後任として、看護部長に就任いたしました。当院には平成8年に入職し現在に至ります。入職時11か月であった娘の子育て中でしたが、亀岡病院の一員として過ごさせていただき、人として看護師として成長させていただいたことに感謝の気持ちで一杯です。入職当初から地域住民の方が安心して看護・介護を受けていただけることを目指した診療に取り組みされておりました。当院ではじめて訪問診療に携わりその取り組みを実感しながら働かせていただきました。亀岡に越えてきて間もないこともあり、初めての訪問診療で別院や畑野など亀岡の土地を知ることでできたこと思い出されます。また、平成25年には新病院への移転も経験し、診療科、スタッフ、介護事業部など増えた中、一層地域に貢献できる病院を目指し取り組んでまいりました。

「私たちは、生命の尊厳と人間性を尊重し、あたたかで信頼される看護・介護をめざします」を看護部の理念とし、看護・介護の道を選んだ時の気持ちを忘れず、患者

様に寄り添い、信頼を高める看護を提供していきたいと考えております。そのために病院機能評価受審、院内外における教育など人材育成にも力を入れて取り組んでいます。看護師として私達の患者様を大切に思う、患者様の立場にたって考えることができる看護師の育成に努めていきます。また、地域の皆様が安心して受診できる病院を目指し、高齢者の慢性疾患とその急性増悪に対応、急性期治療から脱した患者様の受入れ、かかりつけ患者様の救急受診の受入れなど、その役割果たしていきたいと思っております。また、入院から退院まで支援を行うため関連職種と連携をとって患者様とご家族が安心して家庭に戻っていただけるよう地域包括ケアシステムの一部を担うことに努めていきたいと考えています。

現在、コロナ禍にて不安な状況にありますが患者様が安心して治療・看護を受けていただけるよう職員一丸となり感染対策に努めております。今後も皆様からのご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



外来担当医表 (令和2年7月1日から)

		月	火	水	木	金	土
内科	① 診	循環器・内科 細川	呼吸器・内科 山崎	循環器・内科 細川	呼吸器・内科 山崎	呼吸器・内科 山崎	担当医
	② 診	糖尿病・循環器 大槻	糖尿病・循環器 大槻		総合内科 楠岡	糖尿病・循環器 大槻	肝臓 上田②④
	③ 診	糖尿病・内科 牧	もの忘れ・脳神経 森	もの忘れ・脳神経 森	糖尿病・内科 牧	もの忘れ・脳神経 森	
	⑤ 診	循環器・内科 高橋					
	⑦ 診		消化器・内科 中島	脳神経10:00から 藤井			
	夜間 (17:00-19:00)	循環器・内科 細川	糖尿病・内科 牧	もの忘れ・脳神経 森	呼吸器・内科 山崎	消化器・内科 布居	
	午前 (9:00-12:00)	藤田	藤田	藤田	藤田	藤田	11:30 受付終了 別府
整形外科	夜間 (17:00-19:00)			藤田			
脳神経外科	午前 (9:00-12:00)			大山			
皮膚科	夜間 (17:00-19:00)					府立医大	
泌尿器科	午前 (9:00-12:00)			藤井			
眼科	午後 (13:00-15:30)				府立医大	15:00 まで 担当医	
禁煙外来	午後 (12:00-13:00)	細川		細川			
もの忘れ外来	午前 (10:30-12:00)		森			森	
腎不全外来	午前 (9:00-12:00)		藤井				

※数字①②などは、①：第1週 ②：第2週を意味します。

- 内科医師の主な専門分野を表記していますが、一般的な内科疾患はいずれの医師でも対応いたします。(赤字は女性医師)
- 日・祝・祭日および4月17日、8月14日、12月29日～1月3日は全科休診いたします。
- 第2・第4土曜午前に肝臓外来を開設しています。
- 平日は予約優先制となっております。



医療法人 亀岡病院 TEL (0771) 22-0341 (代) FAX (0771) 22-4305

〒621-0815 京都府亀岡市古世町3丁目21番1号 E-mail kamekame@oak.ocn.ne.jp

診療科目 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科、リウマチ科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、泌尿器科、皮膚科、眼科、放射線科

亀岡病院 検索 <http://www.kameokahp.com>

膀胱鏡導入のお知らせ

日本泌尿器科学会専門医・指導医 藤井 秀岳



血尿について

目で見て明らかに血液が混ざっている尿を肉眼的血尿といいます。赤色尿が基本ですが、薄いピンク色であったり、コーヒーやコーラ様の褐色尿であったりさまざまな場合があります。

排尿時痛のない肉眼的血尿は、無症候性肉眼的血尿と呼ばれ、膀胱がんや腎盂・尿管がんの特徴的な症状で、膀胱や上部

尿路を検査する必要があります。

膀胱内を内視鏡で観察することにより、膀胱がんや膀胱結石が発見されたり、血尿が左右どちら側の腎臓からでているのかを特定できる場合があります。また、尿道や前立腺も内部から観察できるので、尿道内や前立腺の異常も検出できることがあります。



膀胱鏡について

この度、亀岡病院泌尿器科にオリンパス社製の軟性膀胱ファイバー（CYF-VHA）が導入されます。この最新内視鏡の特徴をいくつか挙げていくと、①高精細画像（ハイビジョン）で膀胱内を観察可能であること、②NBI（狭帯域光観察）システムが搭載されており、特殊な光で血管新生の判別が容易となり、早期で見つかりにくい膀胱がんを発見可能となったこと、③細い・短い・やわらかい内視鏡であり、検査の苦痛が少ないことなどが大きな特徴です。

膀胱鏡検査の適応は、尿潜血や肉眼的

血尿の精査、膀胱内病変の精査、排尿障害の原因検索、下腹部の疼痛や違和感の原因検索などと多岐にわたります。検査時間は15-20分程度で、日帰りで行うことができます。



当院は亀岡市で唯一の日本泌尿器科学会教育認定施設となっています。今後も、地域に根差した診療を提供できるようにスタッフ一同つとめますので、どうぞよろしくお願ひします。

心臓リハビリテーションをご存知ですか？

心臓リハビリテーションをご存知ですか？リハビリテーションといえば、骨折後の運動器リハビリテーション、脳梗塞後の脳血管リハビリテーションが有名です。今回は、当院で行っている心臓リハビリテーションについて紹介します。

日本は高齢社会を迎え、心疾患、特に心不全の患者数が増加しています。

すでに心不全患者は100万人規模に達しており、心不全患者様をどのように治療するか、ケアしていくのか、重要な課題とされています。

心疾患に対する治療法として、薬物療法、外科的治療法（カテーテルによる治療を含む）などをご存知と思いますが、心臓リハビリテーションも厚生労働省が認めている治療法の一つです。

心臓リハビリテーションは、運動療法だけでなく、高血圧、糖尿病、肥満などの生活習慣病の改善を、食事やメンタルサポートなど、いろいろな方面から取り組むこともプログラムの一部とされています。

心臓の治療を受けておられる方で、心臓リハビリテーションを希望される場合は、一度主治医の先生とご相談ください。



亀岡病院での新型コロナウイルス感染対策

院内感染管理者 脳神経内科 森 信人

2020年初頭に中国から流行し始めた新型コロナウイルス感染症ですが、たちまち世界全体に広がり、日本でも約1万6千人の感染者、うち600人を超える死亡者（共に5月15日現在）を出す事態となっています。皆さんも報道やインターネットなどで情報を集めたり、また行動制限から日々の生活も一変し不安な毎日をお過ごしのことと思います。

新型コロナウイルスについてはまだまだ不明なことも多く、確実な検査や治療が存在しないため、感染をこれ以上拡大しないよう努めることが必要と考えられています。当院ではインフルエンザウイルス流行期よりアルコールによる手指消毒（写真①）、職員のマスク着用、入院病棟への面会制限、外来リハビリ患者様の検温などを行ってまいりましたが、新型コロナウイルスの国内感染の広がりを受け、発熱患者様の専用出入口（写真②）の案内、受診時間、待機場所などの調整を行い、一般外来との接触をできるだけ避けるようにしています。病院受付



写真①



写真②

には飛沫感染予防のためビニールカーテンを設置し、金銭カードの受け渡しもトレイの使用をお願いしています。職員はマスク、フェイスガード、手袋を着用しており（写真③）、声が聞き取りづらいなどで迷惑をおかけしているかと思いますが、ご理解いただきますようお願いいたします。また、今まで以上に感染予防策を徹底し、就労前の体温測定、各部署での体調チェックを行い、職員ひとりひとりが医療従事者であることを深く考え、日々の生活を送るようにしております。現状、入院面会も原則停止しており、入院患者様、またそのご家族は不安などがあると思いますが、高齢者や多数の基礎疾患をお持ちの患者様が多くおられ、限りなく感染の危険を避けるためにもご協力をお願いいたします。

徐々に新規感染者も減ってきておりますが、まだ終息するには時間がかかると考えられ、今後も引き続き対策が必要です。皆様もまめな手洗いを心がけ、不要な外出は避ける、換気の悪いところには行かないなど、感染予防を心がけ、この困難を乗り越えましょう。



写真③